

都道府県別賞一等

幸せのお守り

滋賀県 草津市立草津中学校 二学年

下田 直輝

生命保険は、私たちが健康でいる間に安心して生活を営むための大切な備えです。しかし、まだ私も保険について深く考えたことがなく知らないことも多かったので、父や母に保険について教えてもらうことにしました。

まず、保険とは何か教えてもらいました。保険にはいくつもの種類があり、多様なリスクに対応する保険が提供されています。日常生活で起きる様々なリスクに備える制度なので、何か「事」が起きても心配は軽減します。

私は小学校一年生からサッカーを始めて八年間、捻挫や骨折など、たくさんのケガをしてきました。通院するにはお金がすごくかかりましたが、親が入ってくれた保険のおかげで医療費の負担はかなり減ったそうです。また、家族で新型コロナウイルスにかかり、隔離生活は大変だったけれど、給付金がもらえたのは助かったとのことでした。

年齢が上がるにつれて、生活習慣病やガンのリスクも高くなっていきます。また、女性は出産の時にもリスクがあることもあり、母は保険に入っていて良かったと言っていました。大黒柱の父が急に亡くなったり、仕事が出来ないくらいの大病にかかったり、交通事故に遭った場合どうなるのかと不安になりませんが、それもすっかり保険に入ってくれていることが分かり安心しました。

今年、祖母二人が長期入院の病氣とガンで亡くなりました。入院費用や亡くなった後の葬儀代、お墓、法事などのお金がかかることを教えてもらい、「おばあちゃんが保険に入ってくれていて助かった。」と祖父が教えてくれました。また、公的保障は受け取れる金額が人によって異なるので、足りない部分を私的保障として自分自身で備える必要があり、それが生命保険や損害保険であることが分かりました。両親に教えてもらったことや、自分で調べたことで分かったことは、もうすでに自分自身または自分をとりまく周りの家族は、保険に助けられていて安心した生活を営んでいるということです。

一方で、保険に毎月支払っている高額な金額について教えてもらいました。その話を聞いて、まだ親を頼っている未熟で気楽な自分にはとさせられませんでした。毎月の保険料の支払いが出来るような社会人にならなければいけないことも教えてもらい、今やるべきことは何かも考えさせられました。

学生の間は学費がかかり、社会人になり、家族をもつことになったり、病気になるリスクも歳をとるにつれて上がっていき、老後の資金など、今まで考え

第61回中学生作文コンクール

たこともなかったイメージが少しもてるようになりました。
いくつものリスクが潜んでいる生活の中、保険はそのリスクが万が一現実となった時、役立つものですが、そのリスクが現実とならなかった方がもちろんいいわけで、その時は保険は幸せのお守りとなって私たちを助けてくれるのだと思います。大切な備えがあれば何か事が起きても、心配は軽減します。生命保険はまさに「備えあれば憂いなし」だと思います。備えがあれば「幸せのお守り」に助けてもらえると思うので、今出来ることは何かを考えて日々頑張りたいと思います。